

普段とは違う視点から見た23区、知ればもっと面白い!



クマなくさんぽ

23区内の防災学習施設

寒いこの季節、ストーブやヒーターなど火災の原因となる暖房器具で暖をとる機会が多くなります。2月、3月は1年の中で最も火災が発生する時期です。

今回、東京消防庁の協力を得て、火災や地震などを体験できる池袋防災館を訪ね、火災について学びました。当館は23区内外を問わず、多くの小中学生などの防災の体験の場ともなっています。

消火コーナー



レクチャーを受ける様子

消火器の使い方のレクチャーを受けた後、いざ実践!スクリーンに映し出された炎に向けて消火器を発射します。

ここでは訓練用の消火器のため、中身は水道水でしたが、実際は中身が「粉末」「液体(強化液)」の大きく2つに分けることができます。それぞれ効率よく消火するポイントが違い、「粉末」の場合は外気を遮断する目的で火元を覆うように、「液体」の場合は火元に直接噴射するのが効果的です」と教えていただきました。

煙コーナー

煙の中で視界がどのようになるかを体験し、どうすれば安全に避難できるのかを学びます。ここでの煙は白く、吸い込んでも無害ですが、実際の煙は黒く、吸い込むとむせたり意識がなくなったりするなどとても危険。煙は高いところに上っていく性質があるので、体勢をなるべく低くし、濡れたタオルなどで口を覆うと呼吸しやすくなります。

さらに、火災時は停電し、周りが見えないことも想定されます。「誘導灯は停電しても20分程度は点灯しているので、平常時から誘導灯を確認しておく、いざというときに慌てずに避難できます」とアドバイスをいただきました。



煙が充満した迷路内の様子。暗い中では誘導灯が目安に

取材時に、練馬区内の中学生約80名が体験に訪れていました。引率の先生にお話を聞いたところ、防災教育の一環としてこうした施設を利用しているそうです。いつもはあまり意識することがない災害ですが、日頃から意識しておく、災害時にとっさの判断ができ、災害の抑止に大きく役立ちます。

池袋防災館には、このほかに東日本大震災など実際の大地震を体験したり、AEDの使い方を学べたりする様々な体験コーナーがあります。寒い季節ですが、防災意識を見直す良い機会としてぜひお出かけください。



池袋防災館は池袋消防署の4・5階にあり、開館時間であればどなたでも入場することができます。ただし、体験プログラムは事前に予約が必要ですので、防災館まで直接お問い合わせください。

池袋防災館

- 住所：豊島区西池袋2-37-8
- 交通：池袋駅から徒歩5分
- 開館時間：9:00～17:00
- 休館日：毎週火曜日・第3水曜日(祝日は開館) 12月28日から1月4日
- 問合せ先：03-3590-6565
- HP：http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ikbskan/